

# 宇治市政だより号外

## 市の台所のあらまし

### 告示第35号

地方自治法第244条第1項、地方公営企業法第40条第1項の規定ならびに宇治市財務条例の規定に基づいて、昭和38年度上半期分の財政事情及び昭和37年度決算（見込）の状況を公表します。

昭和38年10月31日

宇治市長 新 庄 義 信

## まえがき

市の財政事情をみなさんに知っていただくことは、私たちのまちをより住みよくするためにぜひ必要なこととす。そこで本市は毎年財政の公

表を行なっています。今回は一般会計（普通会計）と特別会計（上水道事業会計、国民健康保険事業会計）とに分けて、昭和38年度予算の9月

30日までの執行状況と、昭和37年度の決算のあらましをお知らせし、みなさんに市の財政に対するご理解を深めていただくとともに、市政に対し一層のご協力をお願いする次第です。

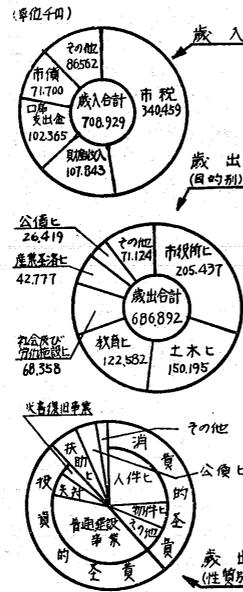
## 37年度決算の成果

昭和37年度決算は、一般会計で歳入は7億892万9千円、歳出は6億

8,889万2千円で、差引2,023万7千円の残額となっています。このうち昭和38年度へ繰り越された財源として市庁舎建設事業費1,853万9千円、災害復旧事業費22万8千円が含まれていますので、これを差引した327万円が実質黒字となります。

さらに昭和37年度の決算の状況をみますと、昭和36年度決算額5億4,743万8千円に比べて1億6,149万1千円の増、歳出では4億9,655万円に比べて1億9,034万2千円の増となっています。

これらの財政規模が増大した原因としては、永年に亘り建設を待望されていた市庁舎建設事業として9,766万円を支出したためと、東宇治中学校の移転改築、西宇治中学校屋内体育館の新築、寛道幼稚園の移転新築、道路、河川、都市計画、失対事業、公営住宅等教育、土木、民生の市政三本の柱を中心とした施策に多額の費用を投入したため、歳入においてはこれら建設的財源の財源に財産売却代を充当したため増大しているものであります。



## 市の財政のあらまし

宇治市は天ヶ瀬ダムの完成を契機として、名神高速道路の建設、国道一号线（京阪国道）の付替等幹線道路網の整備と山科川の改修、宇治川右岸の築堤強化等のおしから市内各所に大規模な宅地造成事業が行なわれ、工場地として多くの工場が建設され、京阪地方のベッドタウンとしてまた南山城地方における中核都市として日急激に変化し、発展をつけています。

これらの急激な都市化に即応して本市における財政も、昭和35年度における赤字解消を転機として、積極政策を推し進めてきました。

昭和37年度は、市庁舎建設事業をはじめ東宇治中学校移転改築、西宇治中学校屋内体育館の新設、寛道幼稚園の移転改築等教育施設の重点的整備と公営住宅の建設、都市計画事業、失業対策事業、災害復旧事業の推進を図り、これらの事業費総額は3億3,617万1千円に達し、歳出決算総額に対し48.9%を占めています。これらの事業費の財源は国・府支出金、市債、市有不用財産の売却および市税等一般財源によって充当し、宇治市開発公社の設立による市政財と表裏一体の財政運営により実質的に327万円の黒字決算をみるこ

とができました。これは議会ならびに市民各位の絶大なご協力とご支援によるものと感謝いたしません。昭和38年度は、昭和37年度にひきつづき発展する本市にふさわしい市庁舎を完成し、宇治小学校の6教室増築、宇治中学校の屋内体育館の新設、公営住宅の建設、宇治橋若森線の舗装をはじめ上水道事業の拡張等の大事業を現在着工実施にうつすとともに消費的経費の節減をはかっていますが、今後さらに予算の効率的な執行により市の発展に寄与したい所存です。

## 一般会計ことしの予算と事業

9月30日現在の予算額は、当初以降2回にわたる追加更正予算を合わせて7億8,702万5千円となっています。

これは昨年同期とくらべ1億6,722万1千円の増で、宇治市発足以来最も大きな予算規模となっています（これは昭和37年度に引きつづき市庁舎の建設費が計上されていることとその他の諸事業費の増大によるものと）。次に収入支出の状況をみると、収入済額2億2,375万3千円、支出済額3億1,556万3千円で、収支差額9,181万円については、大蔵省資金運用部資金、郵政省簡易保険資金、および京都銀行からの一時借入金により支出しています。

歳入において市税収入の48.9%に比べて他の収入が低いが、国、府支出金、起債等は今後事業の進み具合によって漸次収入されることになっています。歳出についても予算額に対し40.1%で、各科目ともその執行

状況は順調な歩みを示し、今後別表に示す事業がどしどし実施されていくことになっています。

歳 入		歳 出	
市税	3,404,590	市役所費	2,297,711
財産収入	1,078,433	土木費	5,024,315
国府支出金	1,464,550	教育費	775,375
市債	57,580	社会及び福祉費	72,004
その他	38,925	保健衛生費	27,641
予算	787,025	産業経済費	40,160
収入済額	223,753	公債費	32,596
		その他	110,877
		予算総額	787,025
		支出済額	315,563

## 37年度決算における主な事業

事業名	事業費	事業内容
補助事業		
都市計画	42,815	宇治橋若森線道路新設、井川改修
西宇治中学校屋内体育館建設	15,059	鉄骨鉄筋造1階
東宇治中学校新築	11,874	鉄骨3階建、普通教室9
公営住宅建設	9,843	神明宮西岡地大造平家20戸
新林土災	4,944	共同農産物乾燥施設作業場
谷山林道開設	9,402	谷山林道、仙鶴谷林道
伊勢田、善法東山岡農道等	2,110	伊勢田、善法東山岡農道等
大谷川改修	5,285	大谷川改修
単独事業		
市庁舎建設	97,660	新庁舎事務合理化1基
防犯設備整備	2,618	ポンプ、防火水塔等
道路改良	1,021	道路改良、道路舗装等
市内各河川改修	16,969	市内各河川改修
河川改修	1,933	開町河川下水改修
下川改修	1,567	開町河川下水改修
寛道幼稚園新築	17,001	鉄骨鉄筋造1階、保育室7
東宇治中学校移転改築	18,866	鉄骨コンクリート造12教室
宇治中中学校移転改築	2,196	25メートルプール8コース
宇治中中学校移転改築	1,707	バックマスター1台
市有林	1,919	植林13町歩、補植2町歩保育37町歩
災害復旧事業		
公共土木災害復旧	23,461	34年、35年、36年、37年災土木災害、林道災害復旧
単独災害復旧	450	
失業対策事業	43,582	宇治橋大原線道路新設ほか

## 主な事業は

ことしの予算における事業費総額は4億4,377万2千円で、昭和37年度決算見込額に比べて6,820万1千円の増加となっています。

市庁舎の建設、教育施設の充実、市道の整備、市営住宅の建設、ゴミ収集の強化等これら事業の実施により、住みよい宇治市のまちづくりをすすめてゆくこととなります。

## 主な事業と支出状況 38,9,30現在（単位千円）

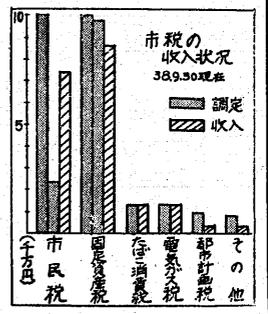
事業名	予算額	支出状況	事業名	予算額	支出状況
補消防自動車購入	1,800	0	単道路整備事業	10,024	4,209
特別道路整備事業	3,007	1,383	橋梁改良事業	1,353	36
宇治小学校増築事業6教室	14,927	1	河川改修事業	1,788	539
宇治中屋内体育館建設事業	18,077	108	下水改修事業	1,495	523
市営住宅建設事業20戸	16,220	595	東宇治中土地建物買取	4,947	0
谷山林道開設事業	10,013	8	ゴミ収集車購入3台	3,120	3,102
土地改良事業	5,384	1,142	公園灯設置	1,468	0
都市計画事業	58,180	10,035	市有林造置	1,297	611
災害関連事業折居川	1,971	438	南山土地造成	45,133	31
災害復旧事業	12,228	1,329	金草原土地造成	3,500	897
失業対策事業	48,715	22,596	大久保公会堂新築	3,160	0
単市庁舎建設事業	116,207	81,241	東宇治中学校継続事業	14,240	13,257
消防設備整備事業	1,415	487	災害復旧事業大谷川	523	523

## 市税収入は向上

昭和38年度の市税総額は、9月30日現在3億8,875万5千円で、一般会計予算総額7億8,702万5千円に対し49.4%をしめています。市税の収入額は1億8,995万4千円で、調定額に対する収入額は53.4%となり、前年同期の49.1%に比べてたいへん良い成績を上げています。

このように市の財政を左右する市税の徴収成績の向上は、市民のみならずご理解とご協力のたまものといえましょう。

市税の税目別うちわけおよび収入状況を示すと別図のとおりです。



←補は補助事業、単は単独事業

### 上水道事業特別会計

天ヶ瀬ダムの貯水を利用、発展する宇治市、城陽町、久御山町、八幡町へ浄水を供給しようとする京都府営天ヶ瀬上水道が新設されるので、本市でも府営上水道から浄水の分与を受け全市域に充分な給水を実施して市勢の急激な発展に即応する体制を整備する計画を実施中です。

総事業費 1億8,015万7千円  
昭和37年度実施済額 2,595万6千円  
昭和38年度予算計上額 6,300万円  
昭和39年以降実施予定額 9,120万1千円

宇治市上水道事業の業務状況は次のとおりです。

#### 建設改良事業は

昭和40年度を目的に昨年度から3カ年継続事業で行なっている天ヶ瀬上水道整備改良事業の本年度拡張工事費の予算額は、6,421万9千円で、財源は起債6,300万円、一般財源121万9千円です。

9月末現在の工事進捗状況は、次のとおりです。

河北送水管布設工事 200万円  
送配水管増設および電線布設工事 231万5千円  
大和田線配水管増設工事 262万6千円

五ヶ庄加圧場築造工事 325万8千円  
五ヶ庄配水池改修工事 440万円  
低区配水池買収費 313万円  
高区配水池取合道路用地89万5千円  
広野町八軒家配水管布設工事46万円  
木幡～みたじろ川配水管布設 166万4千円  
木幡配水管布設工事 410万円  
西町配水管増設工事 192万7千円  
開一里山配水管布設工事 72万3千円  
山ノ内地区配水管新設工事 325万円  
単費配水管工事 115万5千円  
計 3,190万3千円

上水道事業試算表 39,9,30現在 (単位千円)

借方		貸方	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
有形固定資産	113,021	流動負債	21,215
土地・建物	8,093	一時借入金	18,000
構築物	64,835	未払納金	968
機械及び装置	13,657	金庫	2,052
建設仮勘定	25,721	その他	195
流動資産	6,641	資本	92,459
現金	3,276	自己資本	14,691
未収	2,660	借入金	77,765
貯蔵品	705	剰余金	1,436
営業費用	9,107	営業収益	16,043
営業外費用	2,395	営業外収益	14
合計	131,164	合計	131,164

#### 上水道の業務状況

固定資産現在高は、有形固定資産1億1,302万1千円、流動資産664万1千円で合計1億1,966万2千円です。負債は、2,121万5千円で、うち一時借入金1,800万円については起債工事費の前借金です。資本金は9,245万6千円で、そのうち借入資本7,776万5千円(起債現在額)が含まれています。

上半期営業収支は、収益1,605万7千円、費用1,150万2千円で、差引455万5千円の利益金を建設事業費の補てん財源に充当しています。

### 上水道37年度決算

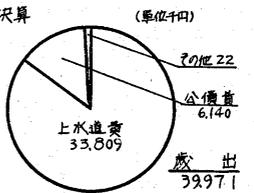
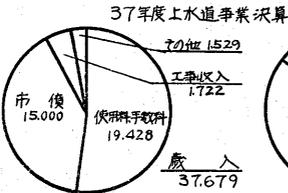
昭和37年度特別会計上水道事業の決算は、公営企業法の適用を受けたため、昭和37年3月31日をもって打ち

切り決算をしました。その結果、歳入総額は3,767万9千円、歳出総額は3,997万1千円となり、差引229万

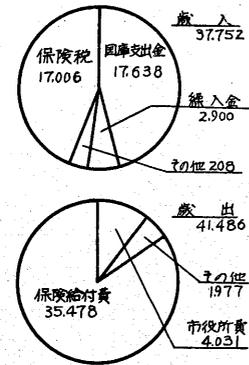
2千円の不足となっていますが、これは水道料金の3月分等198万7千円を未収金として昭和38年度に繰越したため、実質的には30万5千円の赤字となっています。

水道工事では高区配水池の用地買収、大久保第二水源施設の新設、黄栗停車場線五ヶ庄～木幡線、神明～西町線、大久保山ノ内線等2,595万6千円の新設、拡張工事を行ないました。

現在の給水戸数は5,616戸、給水人口は2万5,700人で、昭和37年度中において給水戸数は1,020戸、給水人口は4,590人増加しています。



### 37年度国保決算 (単位千円)



円と40%の増になっていることが大きな特徴です。

なお、決算におきまして、73万6千円の医療費の未払金と歳入歳出差引不足額 373万4千円をあわせて、447万円の赤字額となっています。この不足額は翌年度の歳入金を繰り上げて補てんしました。

### 保険税について

収納率は昭和36年度で87.7%、昭和37年度は85.6%と昭和36年度にくらべて低下しています。国民健康保険が相互共済の精神の通り、お互いに助け合う現制度である以上、保険税の未納は被保険者の方々に影響を及ぼしますので、保険税の納付については格別のご理解とご協力をお願いする次第です。

保険税は安いにこしたことはありません。それには国及び府から多くの補助金を支出されることが第一の条件です。宇治市では、全国市長会全国議長会、国保中央連合会、全国国保主管課長会議等のあらゆる機会を利用して、強力に補助金の増額増額の獲得について運動をしています。

なお、保健施設活動を行なって予防衛生にも力を入れて健康な人づくりに努力を重ねる覚悟でございます。

金給付(旅行や出張などで被保険者証を持たずに医者にかかられたような場合、宇治市が認めて被保険者に支払う医療費)17万5千円、助産費葬祭費及び保育費の任意給付費48万円、審査手数料19万円を含めて保険給付費が3,547万8千円と全体の85.5%と大きな率を占め、次いで事業を運営するための事務費が403万1千円と9.7%、徴税報償費等を含めた諸支出金の3.5%保健施設費0.8%の順になっており、歳出総額は4,148万6千円となります。

医療費につきましては、昭和36年度の費用額4,419万7千円が、昭和37年度におきましては6,165万6千

### 市の財産と負債

昭和38年9月30日現在の市の有財産は、次表のとおりです。

- ① 積立金は、ある特定の目的で積み立てる金銭、有価証券等
- ② 普通基本財産は、山林等これから生ずる収入を一般的な支出にあてるための維持する財産で、議

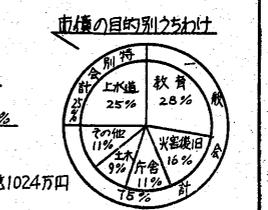
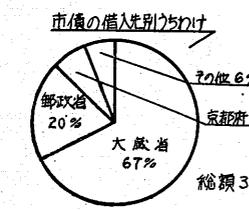
会の議決により基本財産とされたもの

- ③ 公用財産は、市庁舎等市が直接公務のために使用する財産
- ④ 公共用財産は、学校、公会堂、公園等、直接住民が共同使用できるもの

区別	積立金	基本財産			計
		普通基本財産	公用財産	公共用財産	
預金	3,694				3,694
有価証券	1,910				1,910
出資金	715				715
土地		371,722	7,506	74,020	471,218
建物			795	11,502	13,431

負債は大きく分けて市債と一時借入金があります。市債は地方債または起債といわれ、市が行なう事業費の資金として借入れ一定の約束により返済する長期の借金です。9月30日現在の市債の現償額は、一般会計で2億3,247万4千円、上水道事業会計で

7,776万5千円となっています。一時借入金は、その年度内の予算執行上一時的な金ぐりのために借入れるもので、9月30日現在の一時借入金は一般会計で1億1,040万円、特別会計で460万円となっています。



### 国民健康保険事業特別会計

宇治市国民健康保険事業は昭和36年4月1日に事業を開始、本年度で第3年目を迎えました。

この間、被保険者の方が利用される医療費は年々増加の傾向をたどり皆保険制度の確立により相互共済の精神によって医療の機会均等が与えられると同時に、被保険者のかたがたが多くの恩恵を受けられていることはたいへん喜ばしいことです。

#### ことしの予算

昭和38年9月30日現在における予算額と収入及び支出状況は別表のとおりですが、その後9月から実施の地域差撤廃による医療費の増額分、10月から制度改正によって療制世帯のなかの1名を7割給付することによる増額分及び医療費において20%の自然増が見込まれたため、9月定例会市会において保険給付費を大巾に追加しました。

その結果、総医療費のうち宇治市負担分を4,628万9千円と試算し、その他任意給付費、現金給付を含めた保険給付費を4,754万2千円と歳出予算中82.3%の比率を占める金額を見込みました。

その他事務費、保健施設費等をおよぼして、歳出合計額は5,774万

9千円となっています。

歳入につきましては、医療費に対する国の補助金、事務費、保健婦助産費及び調整交付金等の国庫支出金2,497万2千円、一般会計繰入金は前年よりさらに100万円ふやして合計3,190万円及びその他の収入を合計した金額の残りを保険税として徴収することにし、収支を合わせています。

そこで保険税を前年の税率のまま徴収いたしますと、保険給付費の

急増により事業の運営が著しく困難になりますので、やむなく税率を改正して歳出に見合う保険税を徴収することにします。なお、今回の税率改正は昭和38年度の収支に見合う改正であって、昭和36、37年度の赤字を解消する税率ではありません。

宇治市の改正につきましては、宇治市国民健康保険運営協議会ならびに9月の定例会市会において慎重に審議され改正になったものです。

上半期の予算と収入、支出の状況 38,9,30現在 (単位千円)

歳入		歳出	
科目	予算現額	科目	予算現額
国民健康保険税	18,726	市役所費	4,769
国庫支出金	20,069	保険給付費	34,710
繰入金	2,900	保健施設費	551
市債	3,800	諸支出金	5,529
その他	137	予備費	73
歳入合計	45,632	歳出合計	45,632

#### 37年度の決算

昭和37年度の歳入のうち一番大きな収入は国庫支出金で、1,637万8千円と全体の46.7%を占め、次いで国民健康保険税が1,700万6千円と45.0%となっています。

ついで一般会計からの繰入金290万円の7.7%、その他となっており歳入総額は3,775万2千円となります。

歳出では、現物給付(被保険者証を使用されたときの医者に対する宇治市の支払分)3,463万3千円、現

### むすび

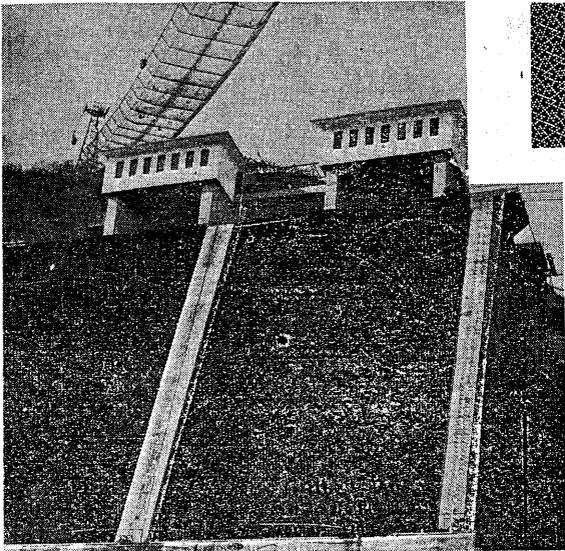
本市の財政事情は必ずしも容易ではありませんが、飛躍する宇治市の基礎づくりのために今後とも財政運

営に慎重を期し円滑な運営をはかっていきたいと考えておりますので、一層のご協力をお願いいたします。

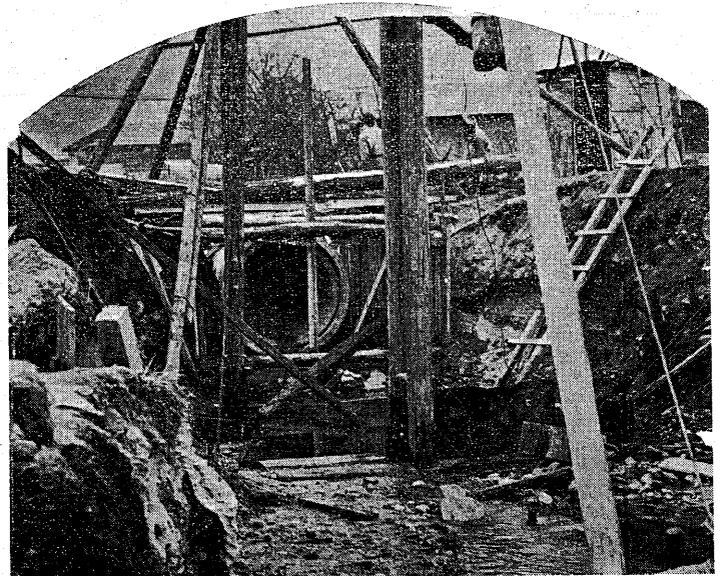
たばこは市内で買ひましよう

# “明日の希望、実現”

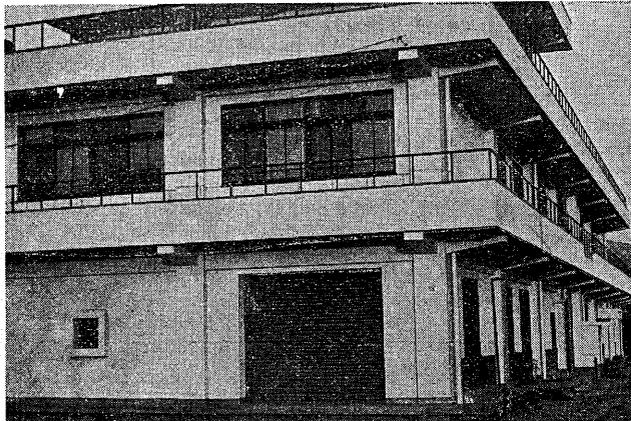
1963年をふりかえる



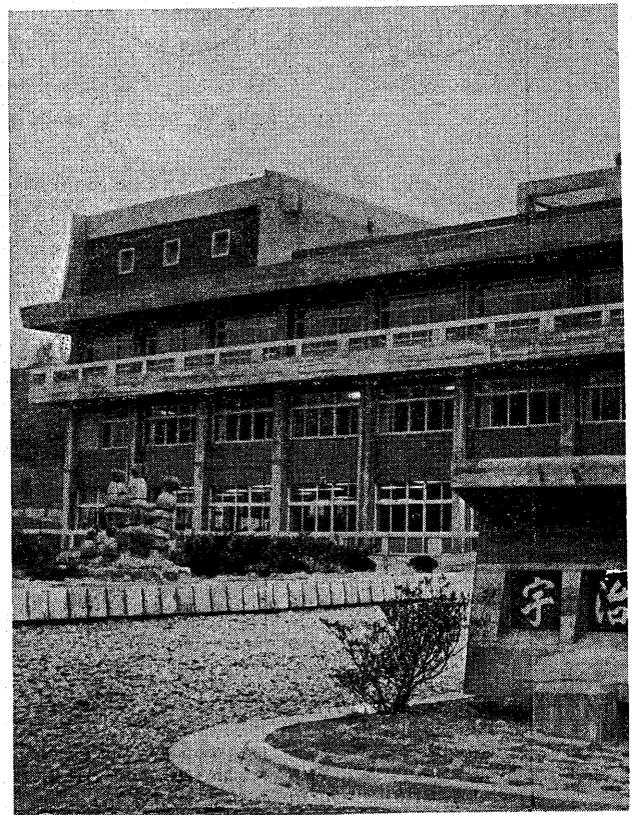
工費6億6千万円で建設中の府管天ヶ瀬上水道工事は現在鑄鉄製の導水管を布設中。全工事が完成すると宇治市、城陽町、久御山町、八幡町に給水される。  
【写真上】ダム上流に設けられた発電所の取水口で、上水道の取水口はこの中の一に取り付けられている 【写真下】完成した天ヶ瀬上水道管理事務所



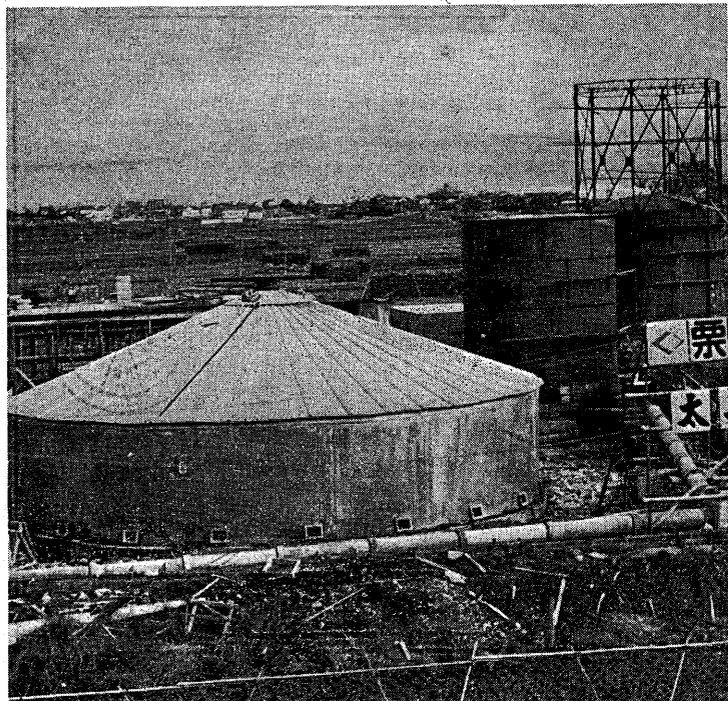
都市下水道井川排水路改良工事は順調に進み、後、ポンプ場の施設の建設を待つて完成する。完成後は、毎年雨期に悩まされた宇治地区市街地の浸水の心配は一挙に解消される。



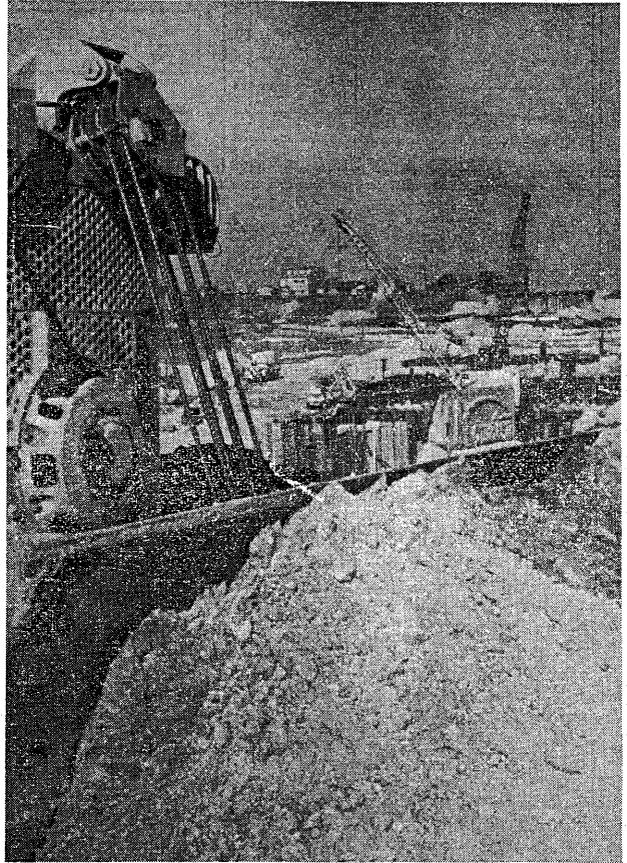
宇治市ほか4町の建設になるし尿処理施設が完成すれば1日10万人のし尿を処理することができ。現在八分通り完成し、39年7月1日には一部運転が開始される。



↑宇治市の歴史に1ページをしるした新庁舎は市民の努力でみ  
今年も、



# へ大きく前進



南山城の総合開発の基幹となる国道1号線のつけ替え工事も着々と進み現在八幡大橋の架が急ピッチで進められている。国道1号線が全通することにより宇治市西部の開発に大きくプラスするものと期待される。



今年も早や師  
走、例年のよう  
にあわただしい  
なかに後数日  
で新年を迎えようとしています。過ぎ  
ゆくこの一年をふり返ってみますと  
市の行政も世の移り変わりとともに  
宇治市の歴史に一ページをしるしま  
した。市制発足以来常に必要に迫ら

## 地域開発こそ市政の進路

れながらも幾多の困難のためになか  
な実現をみなかった待望の新庁舎  
も、議会、市民、歴代理事者の一致  
協力により無事完成することができ  
ました。この市庁舎の完成により、  
市政百年の大計を誤ることなく将来  
に向けて大きく飛躍するはずだと  
して、内外ともに高度の行政水準を  
めざし、市民生活の向上と社会福祉

の増進に大きく寄与するかくのであ  
ります。  
行政の広域化、経済圏の拡大によ  
り、市内における開発もまためざま  
しく、工場の進出、住宅団地の造成  
などめまぐるしい変化の中にも総合  
的な地域の発展を期するためにはよ  
り強力な施策と行政基盤の強化が要  
求されつつあります。

すぎゆく年の暮れにあたり、現在  
進捗中の市政に関係深い主な建設事  
業を特集しました。どうか来年も本  
年にも増してより一層市政にご協力  
いただきますようお願いする次第で  
あります。  
では市民の皆さんよいお年をお迎  
え下さい。



ごここに雄姿をあらわした。  
島の進出はめざましく、設計が新報に開業し、現在建設を行なっている。(太極地区で)

